

一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう

地球表面の多くは深い海でおおわれている。その海で泳ぎ回っている動物のくらしぶりを、人間は直接観察することができない。

動物たちは海の中でどのようにしてくらしているのだろうか。どうしてもそれを知りたい研究者たちは、動物にデータロガーという記録計を取り付けて、動物が自分の行動データをとる「バイオロギング」という手法を考案した。

このバイオロギングを使って調べていく中で、不思議なことに気がついた。人間の場合、体の大きい大人は小さい子どもより速く歩く。だから、海でも体の大きい動物の方が、小さい動物より速く泳いでいると思っていたのに、実際にはそのとおりではなかったのだ。どうやら、体が大きいからといって、必ずしも速く泳ぐわけではない。

このことを確かめるためには、もっと大型の動物のデータが必要になる。そこで、体の大きなマッコウクジラについて調べてみた。いったいどれほど深くもぐり、どのくらいの速さで泳いでいるのだろうか。

調べたデータを見ると、マッコウクジラは、千メートル以上の深さまでもぐっていた。そのときの泳ぐ速さは、時速五・八キロメートルだった。体重十トンを超えるマッコウクジラは、ペンギンやアザラシよりもはるかに大きいから、もっと速く泳ぐと思っていたが、ペンギンやアザラシと同じような速さで泳いでいた。

このほかにも、わたしたちはさまざまな大きさの動物たちについて調べてみた。すると、これだけ体の大きさがことなるのに、泳ぐ速さは、時速四・〇から八・〇キロメートルのせまい範囲におさまっていることが分かった。

この結果から、動物たちは、えさをとるために、できるだけ楽に移動していると考えられる。そのため、いちばんよい速さが、時速四・〇から八・〇キロメートルだったのだ。

バイオロギングで調べてみると、海の中でくらす動物たちは、おどろくほど深く長くもぐることができる一方で、意外とゆっくり泳いでいた。深いところにいるえさをとるために、深く長くもぐれる能力を身につけ、つかれることなく泳ぎ続けられる速さを選んでいたので。

二 これからも動物に取り付ける記録計は改良されて、より小型の動物まで調査できるようになるだろう。この先、どんなデータがえられるようになるのだろうか。動物たちから学べることは、まだまだたくさん残されている。

① 上の文章は、いくつの段落に分かれていますか。次のうち、正しいものの()に、○を書きましよう。

() 八 () 九 () 十

② この文章を、序論・本論・結論のまとまりで分けると、どのような構成になりますか。次のうち、正しいものの()に、○を書きましよう。

序論	第一段落
本論	第二段落～第七段落
結論	第八段落～第九段落

序論	第一段落～第二段落
本論	第三段落～第七段落
結論	第八段落～第九段落

序論	第一段落～第二段落
本論	第三段落～第八段落
結論	第九段落

③ 第四段落にある、「このこと」とは、次のうちの、どのことをさしていますか。正しいものの()に○を書きましよう。

- () 体の大きい大人は小さい子どもより速く歩くこと。
- () 研究者たちはバイオロギングという手法を考案したこと。
- () 体が大きいからといって、必ずしも速く泳ぐわけではないこと。

④ 第七段落にある、「この結果」とは、次のうちの、どのことをさしていますか。正しいものの()に○を書きましよう。

- () マッコウクジラは千メートル以上の深さまでもぐっていたこと。
- () 体の大きい大人は小さい子どもより速く歩くこと。
- () さまざまな動物たちは体の大きさがことなるのに、泳ぐ速さはせまい範囲におさまっていること。

二 書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事がらや、書き手の考えの中心となる事がらをまとめたものをなんといいますか。正しいものの()に○を書きましよう。

- () 要約 () 事実 () 要旨